

# 歯科矯正学

年次	学期	学則科目責任者
4年次	前学期	葛西 一貴 (歯科矯正学)

学修目標 (GIO) と単位数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位数：3単位</li> <li>・学修目標 (GIO)：顎顔面の不正な成長発育や様々な環境要因から引き起こされる不正咬合を改善し、個人の福祉に寄与するため、顎顔面の成長発育の基本的知識ならびに不正咬合の原因とその診断および治療法を理解し、矯正治療に必要な基本的技能を身につけ、さらに患者に対して思いやりと敬意を示し、患者個人を尊重した適切で効果的な診療を実践できる態度を修得する。</li> </ul>
担当教員	葛西 一貴、山口 大、榎本 豊、五関 たけみ、齋藤 勝彦、根岸 慎一、石井 かおり、清水 真美、菊田 純、高橋 桃子、疋田 拓史、村上 嘉規、※小野 修一、※高橋 治、今村 隆一
教科書	歯科矯正学第5版 相馬邦道、飯田順一郎、山本照子、葛西一貴、後藤滋巳 医歯薬出版 歯科矯正学基礎実習書 葛西一貴、山口大、今村隆一、小野修一、五関たけみ、榎本豊、齋藤勝彦、高橋治 わかば出版 歯科矯正学基礎実習書 葛西一貴 編集 わかば出版
参考図書	混合歯列期の矯正歯科治療 後藤滋巳、葛西一貴、三浦廣行、氷室利彦 医歯薬出版 新版 プロフィットの現代歯科矯正学 William R. Proffit (高田健治 訳) クインテッセンス出版
評価方法 (EV)	(講義) 平常試験 (4回実施) で評価する。 (実習) 実習小テストと実習評価によって評価点とする。実習態度も評価点に加味する。 歯科矯正学の評価は講義の評価 (80%) および実習評価 (20%) の合計で行う。なお、講義・実習それぞれ1/5以上を欠席した場合、評価点は0-60点とする。また、講義・実習のいずれかが合格点に達しない場合、歯科矯正学の評価点は60点未満とする。 なお、平常試験の再試験は行わない。
学生へのメッセージ オフィスアワー	近年不正咬合が増加しているといわれているが、その原因と診断について楽しみながら学んでいただきたい。また、ダイナミックな歯の移動により得られたきれいなかみ合わせや顔貌の改善の様子などをみて、矯正学への興味を深めていただきたい。また、実習を通して不正咬合の治療がどのような装置によって行われるか、歯がどのように動くのかを理解してほしい。 e-mailによる質問を受け付ける。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/10 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕第1回 ・歯科矯正学の歩みと定義 ・歯科矯正学の意義と目的 ・成長発育概論	<b>【授業の一般目標】</b> 不正咬合をもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、歯科矯正学の歩みと定義・歯科矯正学の意義と目的・成長発育概論について学ぶ。  <b>【行動目標 (SBOs)】</b> 1. 不正咬合による口腔機能障害を列挙できる。 2. 矯正治療の目的を述べるができる。 3. 成長発育と年齢 (暦齢、生理的年齢) との関係の説明できる。 4. Harris と Scammon の成長発育パターンについて述べるができる。 5. 骨の成長様式を説明できる。 6. 成長発育の評価法および臨床上の利用意義を説明できる。  <b>【準備学修項目と準備学修時間】</b> 項目：①矯正治療とはどのようなものか ②HarrisとScammonの臓器発育曲線について ③生理的年齢について * 歯科矯正学 (第5版) p1 - 22を読んでくること。 時間：60分  <b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b> アクティブラーニング：無 学習媒体：授業配布プリント、PCによるスライド  <b>【学修方略 (LS)】</b> 講義  <b>【場所 (教室/実習室)】</b> 302教室、第5実習室  <b>【国家試験出題基準 (主)】</b> 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 ア 人体の成長発育 b 発育期の特徴  <b>【国家試験出題基準 (副)】</b> 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 ア 人体の成長発育 c 成長発育・発達の特徴 (身体成長、原始反射、運動の発達、社会性の発達、言語の発達、情動の発達)  <b>【コアカリキュラム】</b> C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。	葛西 一貴

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/10 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第2回 ・頭蓋の成長発育 ・顎顔面の成長発育 ・口唇裂、口蓋裂および顔面裂	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、頭蓋の成長発育・顎顔面の成長発育・口唇裂、口蓋裂および顔面裂について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 脳頭蓋と脳頭蓋底の成長発育様式について述べることができる。 2. 顔の成長発育および口唇裂の発生様式について説明できる。 3. 顔面裂の発生様式について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①頭蓋の成長発育の特徴について ②上顎および下顎の成長発育の特徴について * 歯科矯正学 (第5版) p23-40を読んでくること。</p> <p>時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無</p> <p>学習媒体：配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 人体の発生・成長・発達・加齢 イ 歯・口腔・顎・顔面の発生・成長発育 b 上顎骨・下顎骨の成長発育の特徴</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 h 先天異常、発育異常 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 3 歯・口腔・顎・顔面の発生 ア 顔面 イ 顎、口蓋 4 歯・口腔・顎・顔面・頭蓋の成長発育 ア 脳頭蓋の成長発育 イ 顔面頭蓋の成長発育 ウ 歯列・咬合の成長発育</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-4) 人体諸器官の成長、発育と加齢変化 *①人体諸器官の形態と機能の成長、発育および加齢に伴う変化を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 *⑤顎関節の構造と機能を説明できる。 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常 (不正咬合) を説明できる。 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常および後天異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。</p>	葛西 一貴
2017/04/10 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第1回 ・器具貸与・点検	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正学実習で使用する器具の用途について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 矯正学実習で使用する器具の用途について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：矯正装置の製作に用いる器具・器材について 時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有：貸与される矯正治療で使用する器具についてその使用法を各自で確認する。</p> <p>学修媒体：貸与器具 (各種プライヤー、バンドプッシャーなど)、器材 (スポットウエルダー、タイポドントなど) 参考図書：歯科矯正学基礎実習書 わかば出版</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p>	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 足田 拓史 村上 嘉規

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/10 (月) 4時限 14:50~16:20	(実習) 第1回 ・器具貸与・点検	【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 ナ 不正咬合の治療 a 基本的術式  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 純 菊田 桃子 高橋 拓史 疋田 嘉規
2017/04/17 (月) 2時限 10:40~12:10	【講義】第3回 ・咬合概論 ・正常咬合 ・不正咬合 ・不正咬合のとり え方 ・不正咬合の分類	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、咬合概論・正常咬合・不正咬合・不正咬合のとりえ方・不正咬合の分類について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. 正常咬合の種類および矯正治療目標について説明できる。 2. 正常咬合が成立し、かつそれが保持されるための条件を述べることができる。 3. 永久歯列期の正常咬合の概念について説明できる。 4. 不正咬合の病因・病態およびその疫学的特徴を列挙できる。 5. 個々の歯の位置異常およびその用語について説明できる。 6. 上下歯列弓の咬合関係の異常について、先天異常も含めて説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①顎位と咬合について ②咬合と顎運動に関連する筋の主な名称や作用および閉鎖経路について ③Angleの分類および高橋分類について * 歯科矯正学 (第5版) p41-81を読んでくること。  準備学修時間：90分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無  学習媒体：配布プリント、PCによるスライド  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 イ 口腔・顎顔面の構造・機能 a 口腔の構造 (口腔前庭、固有口腔、口蓋、舌、口(腔)底、唾液腺、頬、口唇、口峽、歯列)  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 6 歯列・咬合異常の予防 ア 歯列・咬合異常の要因  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-2) 口唇・口腔の基本構造と機能 *③歯列と咬合について説明できる。 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常 (不正咬合) を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *②正常咬合の概念と成立・保持条件を説明できる。 *③不正咬合によって生じる障害を列挙できる。	葛西 一貴
2017/04/17 (月) 3時限 13:10~14:40	【講義】第4回 ・不正咬合の原因 について	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、不正咬合の原因について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. 不正咬合の原因の環境的要因について述べるができる。 2. 不正咬合の原因の遺伝的要因について述べるができる。 3. 不正咬合の先天的原因について述べるができる。 4. 不正咬合の後天的原因について述べるができる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：不正咬合の原因について * 歯科矯正学 (第5版) p85-99を読んでくること  時間：60分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無  学修媒体：配布資料、PCによるスライド	葛西 一貴

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/17 (月) 3時限 13:10~14:40	〔講義〕第4回 ・不正咬合の原因 について	<p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の病因・病態 エ 不正咬合の原因</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 6 歯列・咬合異常の予防 ア 歯列・咬合異常の要因</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	葛西 一貴
2017/04/17 (月) 4時限 14:50~16:20	(実習)第2回 ・口腔模型の製作	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、診断に必要な口腔模型のための印象採得を行うことができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1.印象採得に適したトレーを選択できる。 2.必要な歯列・小帯・歯肉形態を印記できる。 3.患者の痛みに配慮した印象採得ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：診断用模型に再現される解剖学的構造について 時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有：相互実習により口腔内の印象採得を行い、診断用口腔模型を製作する。 学修媒体：歯科矯正学基礎実習書</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 イ 検査</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 ⑩研究用模型を作製するための印象を適切に採得できる。</p>	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規
2017/04/24 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕第5回 ・不正咬合の予防	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、不正咬合の予防について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1.不正咬合の予防の目的を述べることができる。 2.乳歯列期における予防を説明できる。 3.混合歯列期における予防を説明できる。 4.永久歯列期における予防を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①予防矯正について ②抑制矯正について *歯科矯正学 (第5版) p100-106を読んでもくること。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅰ 歯科疾患の予防・管理 3 不正咬合の予防・管理 イ 不正咬合発生の予防</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p>	葛西 一貴

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/24 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕第5回 ・不正咬合の予防	<p>歯科医学各論 各論Ⅰ 歯科疾患の予防・管理 3 不正咬合の予防・管理 ウ 不正咬合進行の抑制 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 6 歯列・咬合異常の予防 ア 歯列・咬合異常の要因</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	葛西 一貴
2017/04/24 (月) 3時限 13:10~14:40	〔講義〕第6回 ・矯正用材料 ・矯正用器械・器具	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正臨床で用いる矯正用材料・矯正用器械器具について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 矯正用材料としての金属材料種類および特徴を述べることができる。 2. 矯正用材料としてのゴム質ならびにレジン材料の所要性質を述べるができる。 3. 矯正用器材の特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①矯正用器材の種類について ②矯正用歯科材料について * 歯科矯正学 (第5版) p 193-196、348-364を読んでくること。 時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅵ 歯科材料と歯科医療機器 1 生体材料の科学 ウ 金属材料</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅵ 歯科材料と歯科医療機器 15 歯科矯正用材料 ア 線材料、ワイヤー イ バンド、ブラケット ウ 接着材 エ エラスティック オ 床用レジン</p> <p>【コアカリキュラム】 D 歯科生体材料と歯科材料・器械 D-1 素材と器械・器具の所要性質 *①高分子材料、セラミック材料、金属材料および複合材料の構造と物性を説明できる。【構造と物性は基本的かつ一般的なものに限る。また、歯科材料に使用される素材間の物性比較を含む。】 *②生体材料の力学的、物理的、化学的および生物学的の所要性質を説明できる。 *③生体材料と歯科材料の安全性の評価を説明できる。 *④歯科用器械・器具の用途と特徴について説明できる。</p>	榎本 豊
2017/04/24 (月) 4時限 14:50~16:20	(実習) 第3回 ・ワイヤー屈曲 ・自在鑑着	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正装置の作製に必要な線屈曲と自在ろう着について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 0.9mm線の屈曲ができる。 2. 自在ろう着ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①金属線の屈曲に応じたブライヤーの選択について ②自在ろう着の方法について 時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有：所定の形態に0.9mmのCo-Cr合金線を屈曲する。また、舌側弧線装置の製作を想定し、補助弾線のろう着に必要な自在ろう着法を実践する。 学修媒体：ブライヤー類、ブローパイプ、線材料</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p>	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 足田 拓史 村上 嘉規

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/24 (月) 4時限 14:50~16:20	(実習) 第3回 ・ワイヤー屈曲 ・自在鑲着	<p>【国家試験出題基準 (主)】            歯科医学各論            各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態            10 矯正装置            シ リンガルアーチ &lt;舌側弧線装置&gt;</p> <p>【コアカリキュラム】            E 臨床歯学教育            E-4 歯科医療の展開            E-4-1) 不正咬合            *⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。            *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。            *⑦矯正治療に必要な力学を説明できる。</p>	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規
2017/05/01 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕 平常試験 ①	<p>【授業の一般目標】            不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、第1回から第6回までの講義内容の理解度について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】            1. 第1回から第6回までの講義内容を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】            項目：第1回から第6回までの講義内容について</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】            アクティブラーニングの有無：無</p> <p>【学修方略 (LS)】            その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】            302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】            歯科医学総論            総論Ⅶ 主要症候            2 歯・口腔・顎・顔面の症候            ウ 歯列、咬合</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】            必修の基本的事項            7 人体の発生・成長・発達・加齢            イ 歯・口腔・顎・顔面の発生・成長発育            b 上顎骨・下顎骨の成長発育の特徴            歯科医学総論            総論Ⅺ 歯科材料と歯科医療機器            15 歯科矯正用材料            ア 線材料、ワイヤー            歯科医学各論            各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態            7 不正咬合の病因・病態            ア 正常咬合の概念と成立の条件            イ 不正咬合の種類            ウ 不正咬合の分類            エ 不正咬合の原因            オ 不正咬合による障害</p>	葛西 一貴 榎本 豊
2017/05/01 (月) 3時限 13:10~14:40	〔講義〕 第7回 ・形態検査1	<p>【授業の一般目標】            〔講義〕 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、診断に必要な形態検査について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】            1. 初診から治療終了までのプロセスを説明することができる。            2. 一般検査、全身的検査および局所的検査の項目を列挙できる。            3. 顔面写真による顔面形態の検査について説明できる。            4. 口腔模型分析について説明できる。            5. 頭部X線規格写真の特徴および重要性について説明できる。            6. 頭部X線規格写真分析の計測点および基準平面を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】            項目：①歯科矯正臨床における一般的診断項目について ②平行模型と顎態模型について ③・セットアップモデルについて            ④頭部X線規格写真分析で用いる計測点を列挙できる。            * 歯科矯正学 (第5版) p121-150を読んでくること。</p> <p>準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】            アクティブラーニングの有無：無</p> <p>学修媒体：配布資料、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】            講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】            302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】            必修の基本的事項            9 主要な症候            イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとりえ方            e 歯列・咬合の症候</p>	五関 たけみ

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/01 (月) 3時限 13:10~14:40	〔講義〕第7回 ・形態検査1	<p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>1 0 診察の基本</p> <p>カ 口腔・顎・顔面の診察</p> <p>a 顔貌の対称性、顔色、皮膚</p> <p>キ 歯列・咬合状態の診察</p> <p>a 歯列弓の形態・大きさ</p> <p>1 1 検査の基本</p> <p>オ 画像検査</p> <p>a エックス線撮影 (口内法、パノラマエックス線撮影、CT、歯科用コーンビームCT、造影検査)</p> <p>歯科医学総論</p> <p>総論IV 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能</p> <p>2 口腔・顎・顔面の構造</p> <p>サ 顎関節</p> <p>総論VII 主要症候</p> <p>2 歯・口腔・顎・顔面の症候</p> <p>ウ 歯列、咬合</p> <p>オ 顎骨</p> <p>総論IX 検査</p> <p>1 口腔内検査・口腔機能検査</p> <p>カ 歯列・咬合検査</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学教育</p> <p>E-1 診療の基本</p> <p>E-1-1) 基本的診療技能</p> <p>*①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。</p> <p>*⑧的確な病歴聴取 (現病歴、既往歴、家族歴、薬歴等) を行い、必要な部分を抽出できる。</p> <p>⑫基本的診察および検査結果よりの確な診断と治療方針を立案し説明できる。</p> <p>*⑮各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。</p> <p>E-1-2) 画像検査</p> <p>*⑧頭部エックス線撮影の種類および適応を説明できる。</p>	五関 たけみ
2017/05/01 (月) 4時限 14:50~16:20	〔講義〕第8回 形態検査2	<p>【授業の一般目標】</p> <p>不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、診断に必要な形態検査について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 頭部エックス線規格写真の特徴および重要性について説明できる。</p> <p>2. 頭部エックス線規格写真分析の計測点および基準平面を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>項目：頭部エックス線規格写真分析で用いる計測点・基準平面について</p> <p>* 歯科矯正学 (第5版) p 121-150を読んでくること。</p> <p>準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニングの有無：無</p> <p>学修媒体：配布資料、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>3 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>9 主要な症候</p> <p>イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとりえ方</p> <p>e 歯列・咬合の症候</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>必修の基本的事項</p> <p>9 主要な症候</p> <p>イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとりえ方</p> <p>g 顎骨の症候 (形態の異常)</p> <p>1 0 診察の基本</p> <p>カ 口腔・顎・顔面の診察</p> <p>a 顔貌の対称性、顔色、皮膚</p> <p>キ 歯列・咬合状態の診察</p> <p>a 歯列弓の形態・大きさ</p> <p>1 1 検査の基本</p> <p>オ 画像検査</p> <p>a エックス線撮影 (口内法、パノラマエックス線撮影、CT、歯科用コーンビームCT、造影検査)</p> <p>歯科医学総論</p> <p>総論IV 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能</p> <p>2 口腔・顎・顔面の構造</p> <p>サ 顎関節</p> <p>総論VII 主要症候</p> <p>2 歯・口腔・顎・顔面の症候</p> <p>ウ 歯列、咬合</p> <p>オ 顎骨</p> <p>総論IX 検査</p> <p>1 口腔内検査・口腔機能検査</p> <p>カ 歯列・咬合検査</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学教育</p>	五関 たけみ

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/01 (月) 4時限 14:50~16:20	〔講義〕第8回 形態検査2	E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。 ②基本的診察および検査結果よりの確な診断と治療方針を立案し説明できる。 *⑤各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。 E-1-2) 画像検査 *⑧頭部エックス線撮影の種類および適応を説明できる。 E-1-1) 基本的診療技能 *③的確な病歴聴取(現病歴、既往歴、家族歴、薬歴等)を行い、必要な部分を抽出できる。	五関 たけみ
2017/05/08 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕第9回 ・形態検査3	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、診断に必要な形態検査について学ぶ。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 頭部エックス線規格写真分析の計測点および基準平面を説明できる。 2. 各種頭部エックス線規格写真分析法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①頭部エックス線規格写真分析で用いる計測点・計測平面について ②各種セファロ分析法について * 歯科矯正学(第5版) p121-150を読んでくること。</p> <p>準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>学修媒体：配布資料、PCによるスライド</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 9 主要な症候 イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとらえ方 e 歯列・咬合の症候</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 9 主要な症候 イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとらえ方 g 顎骨の症候(形態の異常) 10 診察の基本 キ 歯列・咬合状態の診察 a 歯列弓の形態・大きさ 11 検査の基本 オ 画像検査 a エックス線撮影(口内法、パノラマエックス線撮影、CT、歯科用コーンビームCT、造影検査) 歯科医学総論 総論IV 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 2 口腔・顎・顔面の構造 コ 歯列 サ 顎関節 総論VII 主要症候 2 歯・口腔・顎・顔面の症候 ウ 歯列、咬合 オ 顎骨 総論IX 検査 2 画像検査 サ 顎顔面頭蓋部エックス線検査 コ パノラマエックス線検査</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常(不正咬合)を説明できる。</p>	五関 たけみ
2017/05/08 (月) 3時限 13:10~14:40	〔講義〕第10回 ・形態検査4	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、診断に必要な形態検査について学ぶ。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 頭部エックス線規格写真分析の計測点および基準平面を説明できる。 2. 各種頭部エックス線規格写真分析法を説明できる。 3. セファロ分析の結果から不正咬合の特徴を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①頭部エックス線規格写真分析で用いる計測点、計測平面について ②各種セファロ分析法について ③計測データからわかる不正咬合の特徴について * 歯科矯正学(第5版) p121-150を読んでくること。</p>	五関 たけみ

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/08 (月) 3時限 13:10~14:40	〔講義〕第10回 ・形態検査4	<p>準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>学修媒体：配布資料、PCによるスライド</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 9 主要な症候 イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとりえ方 e 歯列・咬合の症候</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 9 主要な症候 イ 歯・口腔・顎・顔面の症候のとりえ方 g 顎骨の症候（形態の異常） 10 診察の基本 キ 歯列・咬合状態の診察 a 歯列弓の形態・大きさ 11 検査の基本 オ 画像検査 a エックス線撮影（口内法、パノラマエックス線撮影、CT、歯科用コーンビームCT、造影検査） 歯科医学総論 総論IV 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 2 口腔・顎・顔面の構造 コ 歯列 サ 顎関節 総論VII 主要症候 2 歯・口腔・顎・顔面の症候 ウ 歯列、咬合 オ 顎骨 総論IX 検査 2 画像検査 サ 顎顔面頭蓋部エックス線検査 コ パノラマエックス線検査</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *③口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育および加齢による変化を説明できる。【歯の喪失に伴う変化を含む。】 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常（不正咬合）を説明できる。</p>	五関 たけみ
2017/05/08 (月) 4時限 14:50~16:20	(実習) 第4回 ・セファロ分析1	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、セファロ分析および診断について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. セファロ分析に必要な計測点・計測平面の設定ができる。 2. セファロ分析を行いポリゴン図表を完成できる。 3. 計測されたデータから不正咬合の特徴を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：セファロ分析について 準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *セファログラムのトレース図を用い、各自でセファロ分析を行う。得られた結果について、担当教員とディスカッションを行う。</p> <p>学修媒体：鉛筆、分度器、定規、第7~10回の講義で配布された資料および教科書（第5版 歯科矯正学）</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論IX 検査 2 画像検査 サ 顎顔面頭蓋部エックス線検査</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態</p>	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/08 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第4回 ・セファロ分析 1	8 不正咬合の診断 ウ 診断  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規
2017/05/15 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕 第11回 ・機能検査	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、診断に必要な機能検査について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. 機能検査の項目を列挙できる。 2. 各種機能検査法について説明できる。 3. 顎運動の検査と矯正診断とのかかわりを説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：種々の機能検査法について * 歯科矯正学 (第5版) p151-156を読んでくるように。  準備学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無  学修媒体：配布資料、PCによるスライド  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論IX 検査 1 口腔内検査・口腔機能検査 コ 下顎運動検査  【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 11 検査の基本 エ 歯・歯周組織・口腔・顎・顔面の検査 e 筋の検査 歯科医学総論 総論IV 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 3 口腔・顎・顔面・頭頸部の機能 ア 下顎位、下顎運動 コ 発音、構音 総論VII 主要症候 2 歯・口腔・顎・顔面の症候 ウ 歯列、咬合 カ 顎関節 総論IX 検査 1 口腔内検査・口腔機能検査 ケ 下顎位検査 シ 舌運動・舌圧検査 セ 咬合力検査 タ 構音機能検査 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 7 不正咬合の病因・病態 イ 不正咬合の種類  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 ⑩的確な診察と検査から得られた所見を適切に診療録に記載できる。 *⑩基本的診察を行った後、次に必要となる検査を想定できる。	齋藤 勝彦
2017/05/15 (月) 3時限 13:10～14:40	(実習) 第5回 ・舌側弧線装置 1	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. 舌側弧線装置の構成・適応症・歯の移動様式を説明できる。 2. タイポドント (矯正用咬合器) に人工歯を排列して装置製作の準備ができる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①舌側弧線装置の基本構造について ②舌側弧線装置の適応症例について  準備学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *タイポドントを用いて歯根付き人工歯の配列を行う。 タイポドントを用いて舌側弧線装置の製作手順を学び実践する。	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/15 (月) 3時限 13:10~14:40	(実習) 第5回 ・舌側弧線装置 1	<p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 シ リンガルアーチ &lt;舌側弧線装置&gt;</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規
2017/05/15 (月) 4時限 14:50~16:20	(実習) 第6回 ・舌側弧線装置 2	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. タイポドント上で大白歯のバンドの調整ができる。 2. 舌側弧線装置作製の作業模型を作ることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①バンドの試適に使用する矯正器具について ②舌側弧線装置作製の手順について 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *タイポドントを用いて舌側弧線装置の製作手順を学び実践する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 シ リンガルアーチ &lt;舌側弧線装置&gt;</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規
2017/05/22 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕 平常試験 ②	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、第7回から第11回までの講義内容の理解度について確認する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 第7回から第11回までの講義内容を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：第7回から第11回までの講義内容について</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>【学修方略 (LS)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論IX 検査 2 画像検査 サ 顎顔面頭蓋部エックス線検査</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 主要症候 2 歯・口腔・顎・顔面の症候 ウ 歯列、咬合 総論IX 検査 1 口腔内検査・口腔機能検査 カ 歯列・咬合検査 コ 下顎運動検査 サ 顎関節・筋機能検査 2 画像検査 コ パノラマエックス線検査 総論X 治療 1 治療計画</p>	葛西 一貴 五関 たけみ 齋藤 勝彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/22 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕 平常試験 ②	イ 治療計画を左右する因子 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 イ 検査  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。	葛西 一貴 五関 たけみ 齋藤 勝彦
2017/05/22 (月) 3時限 13:10~14:40	(実習) 第7回 ・舌側弧線装置 3	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. 矯正用バンドにSTロックを装着できる。 2. 主線およびSTロック脚部を屈曲しろう着できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①舌側弧線装置の基本構造について ②維持装置 (STロック) の攻勢について  準備学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *タイポドントを用いて舌側弧線装置の製作手順を学び実践する。  【学修方略 (LS)】 実習  【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 シ リンガルアーチ <舌側弧線装置>  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純
2017/05/22 (月) 4時限 14:50~16:20	(実習) 第8回 ・舌側弧線装置 4	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. 舌側弧線装置のタイポドントへの合着ができる。 2. 補助弾線を自在しろう着できる。 3. 補助弾線の調整ができる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①舌側弧線装置の基本構造について ②補助弾線の種類について  準備学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *タイポドントを用いて舌側弧線装置の製作手順を学び実践する。  【学修方略 (LS)】 実習  【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 シ リンガルアーチ <舌側弧線装置>  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純
2017/05/29 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕 平常試験 ①②フィードバック	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、第7回から第11回までの講義内容の理解度について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. 第7回から第11回までの講義内容を説明できる。	葛西 一貴 五関 たけみ 齋藤 勝彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/29 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕 平常試験 ①②フィードバック	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：第1回および第2回平常試験の見直し</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論IX 検査 2 画像検査 サ 顎顔面頭蓋部エックス線検査</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論VII 主要症候 2 歯・口腔・顎・顔面の症候 ウ 歯列、咬合 総論IX 検査 1 口腔内検査・口腔機能検査 カ 歯列・咬合検査 コ 下顎運動検査 サ 顎関節・筋機能検査 2 画像検査 コ パノラマエックス線検査 総論X 治療 1 治療計画 イ 治療計画を左右する因子 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 イ 検査</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	葛西 一貴 五関 たけみ 齋藤 勝彦
2017/05/29 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕 第12回 ・治療学概論 ・治療計画の立案 ・乳歯列期および混合歯列期の治療 1	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、治療学概論・治療計画の立案・乳歯列期および混合歯列期の治療について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 検査および症例分析の結果を総合評価できる。 2. 矯正治療の開始時期と流れについて説明できる。 3. 乳歯列期における治療について説明できる。 4. 乳歯列期の治療についてその概略を述べることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①予防矯正、抑制矯正、限局矯正、本格矯正について ②各種不正咬合の特徴 * 歯科矯正学（第5版）p247-264を読んでくること。</p> <p>準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>学修媒体：配布資料、PCによるスライド</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論X 治療 1 治療計画 ア 治療計画の立案</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論X 治療 1 治療計画 イ 治療計画を左右する因子 ウ 治療計画の提示 エ 治療の評価 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ウ 診断 エ 治療計画 11 不正咬合の治療 ア 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	齋藤 勝彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/29 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第12回 ・治療学概論 ・治療計画の立案 ・乳歯列期および混合歯列期の治療 1	E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 *⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。 E-4-2) 小児の歯科治療 *⑩小児患者の対応について説明できる。	齋藤 勝彦
2017/05/29 (月) 4時限 14:50～16:20	〔講義〕第13回 ・乳歯列期および混合歯列期の治療 2	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、乳歯列期および混合歯列期の治療について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. 乳歯混合歯列期の治療目標を説明できる。 2. 予防矯正について説明できる。 3. 抑制矯正について説明できる。 4. 早期治療の必要性を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①乳歯・混合歯列期の治療目標について ②早期治療の必要な不正状態とは * 歯科矯正学 (第5版) p 247-264を読んでくること。  準備学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無  学修媒体：配布資料、PCによるスライド  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論X 治療 1 治療計画 イ 治療計画を左右する因子  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論X 治療 1 治療計画 エ 治療の評価 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 11 不正咬合の治療 ア 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 *⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。	齋藤 勝彦
2017/06/05 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第14回 ・矯正装置	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、乳歯列期および混合歯列期の治療で用いる矯正装置について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. 乳歯列および混合歯列期の治療に用いる矯正装置について述べるができる。 2. 舌側弧線装置の構造および適応症について説明できる。 3. ヘッドギア、チンキャップおよび上顎前方牽引装置の使用目的および作用効果について説明できる。 4. 床矯正装置の種類および使用目的について説明できる。 5. Rapid expansion の作用効果について述べるができる。 6. Slow expansion の作用効果について述べるができる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①乳歯混合歯列期に使用する矯正装置について ②各種矯正装置の特徴について  準備学修時間：60分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論X 治療	齋藤 勝彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/05 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第14回 ・矯正装置	1 治療計画 イ 治療計画を左右する因子  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論X 治療 1 治療計画 エ 治療の評価 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 1 1 不正咬合の治療 ア 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 *⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。	齋藤 勝彦
2017/06/05 (月) 3時限 13:10～14:40	(実習) 第8回 ・舌側弧線装置5	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、舌側弧線装置について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. 舌側弧線装置のタイポドントへの合着ができる。 2. 補助弾線を自在に着着できる。 3. 補助弾線の調整ができる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①補助弾線の調整に必要な矯正器具について ②補助弾線の種類について  準備学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有：舌側弧線装置を完成させる。補助弾線の調整を行い、タイポドント上で舌側弧線装置による歯の移動の実際を観察する。  【学修方略 (LS)】 実習  【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 1 0 矯正装置 シ リンガルアーチ <舌側弧線装置>  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 疋田 拓史 高橋 桃子 村上 嘉規
2017/06/05 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第8回 ・舌側弧線装置と マルチブラケット 装置	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、マルチブラケット装置について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. マルチブラケット装置について説明できる。 2. 上顎前歯部のブラケットポジションを説明できる。 3. アーチワイヤーを結紮できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：マルチブラケット装置について  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有：舌側弧線装置で被蓋を改善した後に、マルチブラケット装置を上顎前歯部に装着することで、ブラケットとワイヤーによる歯の動きを観察する。  【学修方略 (LS)】 実習  【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 1 0 矯正装置 シ リンガルアーチ <舌側弧線装置>  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/12 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第15回 ・矯正歯科治療における抜歯1	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療における抜歯について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 矯正歯科治療における抜歯の意義について説明できる。 2. 矯正歯科治療における抜歯の部位と数について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①抜歯の意義について ②抜歯の有無に影響する因子について * 歯科矯正学 (第5版) p 157-171を読んでおくこと。 準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論 X 治療 1 治療計画 ア 治療計画の立案</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論 X 治療 1 治療計画 イ 治療計画を左右する因子 歯科医学各論 各論 II 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ウ 診断 9 矯正力と固定 エ 固定</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生および構造と機能 *②歯種別の形態と特徴を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	山口 大
2017/06/12 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第16回 ・矯正歯科治療における抜歯2	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療における抜歯について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 矯正歯科治療における抜歯の部位と数について説明できる。 2. 連続抜去法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：連続抜去法について * 歯科矯正学 (第5版) p 157-171を読んでおくこと。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論 X 治療 1 治療計画 ア 治療計画の立案</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論 X 治療 1 治療計画 イ 治療計画を左右する因子 歯科医学各論 各論 II 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ウ 診断</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育</p>	山口 大

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/12 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第16回 ・矯正歯科治療に おける抜歯2	E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-1) 歯と歯周組織の発生および構造と機能 *②歯種別の形態と特徴を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。	山口 大
2017/06/12 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第9回 ・矯正用器械・器 具2	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正治療で使用する器具および装置の実際について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. 矯正治療で使用するブライヤーを列挙できる。 2. アーチワイヤー製作に必要な器具・器材を説明できる。 3. 各種矯正装置の特徴について説明できる。 4. 各種矯正装置の取り扱いを説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①矯正用ブライヤーについて ②矯正装置について *講義で配布したプリントを復習してこること。  準備学修時間：60分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有：矯正用ブライヤーを実際に使用してみることで、器具の特徴を学ぶ。また、矯正装置の患者説明用見本を用いて、装置の特徴および、その取り扱い法について学ぶ。  【学修方略 (LS)】 実習  【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 ナ 不正咬合の治療 a 基本的術式  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 石井 かおり 清水 真美 根岸 慎一 菊田 純 高橋 桃子 足田 拓史 村上 嘉規
2017/06/19 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第17回 ・矯正歯科治療に おける固定1	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療を行う上で必要な固定の種類について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. 部位による固定の種類を説明できる。 2. 抵抗の性質による固定の種類を説明できる。 3. 抜歯症例における抜歯空隙利用のための固定の強さについて説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①固定の意義について ②固定の種類について *歯科矯正学 (第5版) p185-192を読んでおくこと。  準備学修時間：60分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無  学修媒体：配布プリント、PCによるスライド  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 9 矯正力と固定 エ 固定  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。	山口 大
2017/06/19 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第18回 ・矯正歯科治療に おける固定2	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療を行う上で必要な固定の種類について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. 抜歯症例における抜歯空隙利用のための固定の強さについて説明できる。 2. 加齢固定を説明できる。 3. Tweedの準備固定を説明できる。	山口 大

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/19 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第18回 ・矯正歯科治療に おける固定2	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①固定の種類について ②加強固定について ③Tweedの準備固定について * 歯科矯正学 (第5版) p 185-192を読んでおくこと。</p> <p>準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>学修媒体：配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 9 矯正力と固定 エ 固定</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	山口 大
2017/06/19 (月) 4時限 14:50～16:20	〔講義〕第19回 ・矯正力 ・生体反応	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正力と生体反応について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 顎整形力について説明できる。 2. 機能的矯正力について説明できる。 3. 歯の傾斜移動と歯体移動について説明できる。 4. 矯正力に伴う生体反応を説明できる。 5. 圧迫側と牽引側の組織変化を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①矯正力の種類について ②歯の移動様式について ③矯正力に伴う生体反応について * 歯科矯正学 (第5版) p 179-183を読んでおくこと。</p> <p>準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>学修媒体：配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 9 矯正力と固定 ア 狭義の矯正力</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 9 矯正力と固定 イ 顎整形力 ウ 生体反応</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑦矯正治療に必要な力学を説明できる。 *⑧矯正治療によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。</p>	山口 大
2017/06/26 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕平常試験 ③	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、第12回から第19回までの講義内容の理解度について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 第12回から第19回までの講義内容を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：第12回から第19回までの講義内容について</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>【学修方略 (LS)】</p>	葛西 一貴 山口 大 齋藤 勝彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/26 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕 平常試験 ③	講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 エ 治療計画  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 9 矯正力と固定 ア 狭義の矯正力 イ 顎整形力 ウ 生体反応 エ 固定 11 不正咬合の治療 ア 乳歯列期・混合歯列期の不正咬合の治療	葛西 一貴 山口 大 齋藤 勝彦
2017/06/26 (月) 3時限 13:10~14:40	〔講義〕 第20回 ・永久歯列期の治療1	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、永久歯列期の治療について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. マルチブラケット装置の特徴を説明できる。 2. アーチワイヤーの屈曲について説明できる。 3. Edgewise 法による治療の流れを説明できる。 4. Begg 法の特徴について説明できる。 5. 各種不正咬合の治療を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①永久歯列期の不正咬合の特徴について ②永久歯列期の矯正治療の目標について ③永久歯列期の矯正治療に使用する装置について * 歯科矯正学 (第5版) p267-310を読んでおくこと。  準備学修時間：90分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無  学修媒体：配布プリント、PCによるスライド  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 サ マルチブラケット装置  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 11 不正咬合の治療 イ 永久歯列期の不正咬合の治療  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *④口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の成長・発育異常 (不正咬合) を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 *⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。	根岸 慎一
2017/06/26 (月) 4時限 14:50~16:20	〔講義〕 第21回 ・永久歯列期の治療2	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、永久歯列期の治療について学ぶ。  【行動目標 (SBOs)】 1. マルチブラケット装置 (Edgewise 装置) の構成および特徴について説明できる。 2. Edgewise 装置のメカニズムについて説明できる。 3. Edgewise 法による治療の流れを説明できる。 4. アーチワイヤーの屈曲について説明できる。 5. Begg 法の特徴について説明できる。 6. 各種不正咬合の治療を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①永久歯列期の不正咬合の特徴について ②永久歯列期の矯正治療の目標について ③永久歯列期の矯正治療に使用する装置について * 歯科矯正学 (第5版) p267-310を読んでおくこと。  準備学修時間：90分	根岸 慎一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/26 (月) 4時限 14:50～16:20	〔講義〕第21回 ・永久歯列期の治療 2	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>学修媒体：配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 10 矯正装置 サ マルチブラケット装置</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 11 不正咬合の治療 イ 永久歯列期の不正咬合の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 *⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。 *⑥矯正装置の種類と特徴、および使用目的を説明できる。</p>	根岸 慎一
2017/07/03 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第22回 ・他科との共同による治療 1	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、他科との共同による治療について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 口蓋裂の治療法について説明できる。 2. 唇顎口蓋裂患者の顎骨および咬合の特徴について説明できる。 3. 唇顎口蓋裂患者の治療の流れについてその概略を説明できる。 4. 口腔領域の奇形について述べることができる。 5. 顎変形症の原因、治療法について説明できる。 6. 外科矯正治療の目的および適応症について述べることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①他科との協同を必要とする矯正治療について ②口蓋裂の発生原因について * 歯科矯正学（第5版） p 311-336を読んでおくこと。</p> <p>準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>学修媒体：配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論X 治療 1 治療計画 ア 治療計画の立案</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 1 歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天異常 ア 口唇・口蓋裂 11 不正咬合の治療 ウ 先天性疾患を伴う不正咬合の治療 エ 顎変形症の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(1) 先天異常および後天異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。 *②口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。 *③顎変形症を概説できる。</p>	榎本 豊
2017/07/03 (月) 3時限 13:10～14:40	〔講義〕第23回 ・他科との共同による治療 2	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、他科との共同による治療について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p>	榎本 豊

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/07/03 (月) 3時限 13:10~14:40	〔講義〕第23回 ・他科との共同による治療2	<p>1. 唇顎口蓋裂患者の治療の流れについてその概略を説明できる。 2. 顎変形症の原因、治療法について説明できる。 3. 外科矯正治療の目的および適応症について述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：顎変形症について * 歯科矯正学（第5版） p 311-336を読んでおくこと。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>学修媒体：配布プリント、PCによるスライド</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 エ 治療計画</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 1 歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天異常 ア 口唇・口蓋裂 11 不正咬合の治療 ウ 先天性疾患を伴う不正咬合の治療 エ 顎変形症の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常および後天異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。 *②口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。 *③顎変形症を概説できる。</p>	榎本 豊
2017/07/03 (月) 4時限 14:50~16:20	(実習) 第10回 ・矯正用器具の確認・返却	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正学実習で使用する器具の用途について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 矯正実習で使用する器具の用途について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：矯正装置の製作に使用する器具器材について 準備学修期間：（復習）30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *各自で装置作製に使用したブライヤー類の確認を行い、返却する。</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 ナ 不正咬合の治療 a 基本的術式</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑤矯正治療に用いる器材の名称と使い方を説明できる。</p>	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 石井 かおり 清水 真美 根岸 慎一 菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規
2017/07/10 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕第24回 ・口腔筋機能療法	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、口腔筋機能療法について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 口腔筋機能療法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①不正咬合の原因となる習癖について ②矯正治療に障害となる口腔習癖について * 歯科矯正学（第5版） p 265-266を読んでおくこと。</p>	高橋 治

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/07/10 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕第24回 ・口腔筋機能療法	準備学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、P C 【学修方略（L S）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 e 不正咬合 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 6 歯列・咬合異常の予防 オ 口腔習癖とその対応 7 不正咬合の病因・病態 エ 不正咬合の原因 8 不正咬合の診断 イ 検査 ウ 診断 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (10) 口唇・口腔・顎顔面領域の機能障害 *①咬合異常と咀嚼障害の原因と診察、検査、診断および治療方針を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。	高橋 治
2017/07/10 (月) 3時限 13:10~14:40	〔講義〕第25回 ・矯正歯科治療に伴う偶発症・口腔衛生管理	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、矯正歯科治療に伴う偶発症について学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. 矯正治療時に生じる偶発症について説明できる。 2. 矯正装置装着中の口腔管理について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 項目：①矯正治療に伴う偶発症について ②歯科矯正治療中の口腔形成管理について * 歯科矯正学（第5版）p 337-347を読んでおくこと。 準備学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無 学修媒体：配布資料、P Cによるスライド 【学修方略（L S）】 講義 【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 11 不正咬合の治療 ク 偶発症 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (2) 歯髄・根尖歯周組織疾患の診断と治療 *⑦失活歯の変色の原因、種類および処置を説明できる。 *⑧歯根吸収の原因、症状、診断および処置を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *⑧矯正治療によって起こる生体の反応を細胞あるいは分子生物学的に説明できる。 *⑨矯正治療によって生じうる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。	今村 隆一
2017/07/10 (月) 4時限 14:50~16:20	(実習) 第11回 ・セファロ分析・ 模型分析および診断1	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、セファロ分析および診断について学ぶ。 【行動目標（SBOs）】 1. 矯正治療の診断のためのセファロ分析を説明できる。 2. 模型分析のデータと併せて、治療計画の立案ができる。	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/07/10 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第11回 ・セファロ分析・ 模型分析および診 断1	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：形態分析・機能分析について（復習） 準備学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *各自でセファロ分析を行い、与えられた模型分析データとともに治療計画の立案を行い、担当者とディスカッションを行う。</p> <p>学修媒体：分度器、定規、セファロトレース図、機能分析および形態分析の講義で配布したプリント</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論IX 検査 2 画像検査 サ 顎顔面頭蓋部エックス線検査</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ウ 診断</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規
2017/07/24 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕 平常試験 ④	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、第20回から第25回までの講義内容の理解度について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 第19回から第24回までの講義内容を説明できる。 2. 第20回から25回までの講義内容を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：第20回から第25回までの講義内容について</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 11 不正咬合の治療 イ 永久歯列期の不正咬合の治療</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論I 歯科疾患の予防・管理 3 不正咬合の予防・管理 ア 不正咬合発生・進行の要因 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 11 不正咬合の治療 ウ 先天性疾患を伴う不正咬合の治療 エ 顎変形症の治療 オ 補綴・歯周治療との併用 カ 治療中の管理 ク 偶発症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。 *⑨矯正治療によって生じうる医原性障害を挙げ、その予防法と処置を説明できる。</p>	葛西 一貴 今村 隆一 高橋 治慎 根岸 一豊 榎本 豊
2017/07/24 (月) 3時限 13:10～14:40	(実習) 第12回 ・セファロ分析・ 模型分析および診 断2	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、セファロ分析および模型分析・診断について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 側面頭部エックス線規格写真からセファロ分析に必要なトレース図を作成することができる。</p>	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/07/24 (月) 3時限 13:10～14:40	(実習) 第12回 ・セファロ分析・ 模型分析および診 断2	2. 矯正治療の診断に必要な模型分析を行うことができる。 3. 診断に必要なセファロ分析を行うことができる。 4. 得られたデータを元に、治療計画の立案を行うことができる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：形態分析・機能分析について（復習）  準備学修時間：60分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *各自のセファログラムからトレース図を作成し、各自の口腔模型を用いて分析を行う。そのデータをもとに治療計画の立案を行う。 学修媒体：分度器、定規、セファロトレース図、機能分析および形態分析の講義で配布したプリント  【学修方略（LS）】 演習  【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 エ 治療計画  【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ウ 診断  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。	清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規
2017/07/24 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第13回 ・セファロ分析・ 模型分析および診 断3	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、セファロ分析・模型分析および診断について学ぶ。  【行動目標（SBOs）】 1. 分析データをもとに治療計画の立案ができる。  【準備学修項目と準備学修時間】 項目：形態分析・機能分析について（復習）  準備学修時間：60分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *各自のセファログラムからトレース図を作成し、各自の口腔模型を用いて分析を行う。そのデータをもとに治療計画の立案を行う。 学修媒体：分度器、定規、セファロトレース図、機能分析および形態分析の講義で配布したプリント  【学修方略（LS）】 演習  【場所（教室/実習室）】 302教室、第5実習室  【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 エ 治療計画  【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ウ 診断  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規
2017/09/04 (月) 2時限 10:40～12:10	〔講義〕第26回 矯正治療の実際	【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、永久歯列期の治療について学ぶ。  【行動目標（SBOs）】 1. 各種不正咬合の治療を説明できる。 2. マルチブラケット装置による治療を説明できる。	小野 修一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/09/04 (月) 2時限 10:40~12:10	〔講義〕第26回 矯正治療の実際	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：永久歯列期の矯正治療について</p> <p>準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無</p> <p>学修媒体：P C</p> <p>【学修方略（L S）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 3 0 2 教室、第 5 実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 1 0 矯正装置 サ マルチブラケット装置</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 1 1 不正咬合の治療 イ 永久歯列期の不正咬合の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	小野 修一
2017/09/04 (月) 3時限 13:10~14:40	(実習) 第14回 ・治療計画の立案 2	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、診断用資料から必要な情報の抽出を行う。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. 治療計画をわかりやすく説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：治療計画の立案を左右する因子について</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *各自のデータをもとに立案した治療計画について、グループ討議を行い発表する。</p> <p>【学修方略（L S）】 演習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 3 0 2 教室、第 5 実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 1 1 不正咬合の治療 イ 永久歯列期の不正咬合の治療</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ウ 診断</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。</p>	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規
2017/09/04 (月) 4時限 14:50~16:20	(実習) 第15回 ・治療計画の立案 2 〔講義〕平常試験 ③④フィードバック	<p>【授業の一般目標】 不正咬合がもたらす口腔機能障害や審美的障害を除去し、患者のQOLの向上を図るために、提示されるデータを元にした治療計画の立案を行う。</p> <p>【行動目標（S B O s）】 1. セファロ分析の結果を説明できる。 2. 模型分析の結果を説明できる。 3. セファロおよび模型から得られた所見を説明できる。 4. 症例の問題点のリストアップができる。 5. 治療計画の概要を立案できる。 6. 抜歯・非抜歯の判定ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 項目：治療計画を左右する因子について</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：有 *各自のデータをもとに立案した治療計画について、グループ討議を行い発表する。</p>	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/09/04 (月) 4時限 14:50～16:20	(実習) 第15回 ・治療計画の立案 2 【講義】 平常試験 ③④フィードバック	<b>【学修方略 (LS)】</b> 演習  <b>【場所 (教室/実習室)】</b> 302教室、第5実習室  <b>【国家試験出題基準 (主)】</b> 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 11 不正咬合の治療 イ 永久歯列期の不正咬合の治療  <b>【国家試験出題基準 (副)】</b> 歯科医学各論 各論Ⅱ 成長発育に関連した疾患・病態 8 不正咬合の診断 ウ 診断  <b>【コアカリキュラム】</b> E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-1) 不正咬合 *④不正咬合の原因、種類、診察、検査、診断、治療および予防法を説明できる。	葛西 一貴 山口 大 五関 たけみ 榎本 豊 齋藤 勝彦 根岸 慎一 石井 かおり 清水 真美 菊田 純 高橋 桃子 疋田 拓史 村上 嘉規